

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 8 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00487

研究課題名(和文)近代ドイツ語圏におけるコスモポリタンの存在としての俳優について

研究課題名(英文)Actors and Their Cosmopolitan Existence in the Modern German-Speaking Sphere

研究代表者

山崎 明日香(YAMAZAKI, Asuka)

日本大学・商学部・准教授

研究者番号：10707350

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：18世紀の市民社会の構築は、超領域的に人間解放を掲げる理想主義的また倫理的コスモポリタニズム、さらに商業主義的コスモポリタニズムを生み出した。本研究は、近代において、諸民族や階層間の精神文化的な紐帯として国民啓蒙的な役割を果たしたトランスナショナルな俳優像を分析し、その公共空間における普遍的な政治理念の敷衍だけではなく、異文化交流の担い手として和平創造を行った文化的機能と、それによる俳優の社会的権威の拡大について検証した。そして諸国の市民の生と娯楽を豊饒化し、ジェンダー規範の補強や刷新を行った俳優の美的なコスモポリタンの身体性とそのグローバルな文化的消費を、複合的視点から検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の研究では、近代の俳優とその諸活動が、文化的ナショナリズムにおける民衆啓蒙のための教養劇場の理念に関連付けられてきた。本研究は、従来まで考慮されずにいた、近代ドイツ語圏のトランスナショナルでコスモポリタンの俳優像について、思想家や演劇批評家また俳優自身の言説を基に、同時代のコスモポリタニズムの思想に関連付けて検証した。また俳優の公共空間での普遍的な政治理念の敷衍や異文化交流的な機能の全体像を把握し理論化した。さらに経済資源である俳優の美的身体性の超領域的な流通拡大が、市民的な生と性を解放させ、俳優のカリスマ化に伴う政治文化的な大衆支配のツールへと変貌した過程を問題化した。

研究成果の概要(英文)：The construction of civil society in the 18th century resulted in the development of an idealistic and ethical cosmopolitanism, as well as a market and commercial cosmopolitanism, which promoted human emancipation on a supra-regional basis. This study analyzes the figure of the transnational actor who functioned as a national enlightenment in the modern era as a spiritual and cultural bond between the people of different nationalities and classes. Also, it examined the cultural functions of actors who not only promoted universal political ideals in the public space, but also created peace as leaders of intercultural exchange, thereby expanding their social authority. From multiple perspectives, I also investigated the aesthetic cosmopolitan physicality of actors and their global cultural consumption, which enriched the lives and pleasures of citizens in various countries, and reinforced and renewed gender norms.

研究分野：西洋演劇、ドイツ文学、芸術学

キーワード：コスモポリタニズム 演劇教育 俳優 ナショナリズム 啓蒙思想 演技術 検閲 異文化交流

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

従来の研究では、近代の俳優とその諸活動が、文化的ナショナリズムにおける民衆啓蒙のための教養劇場の理念に関連付けられてきた。本研究は、従来まで考慮されずにいた、近代ドイツ語圏のトランスナショナルな俳優像とその諸活動について、思想家や演劇批評家また俳優自身の言説や周囲の証言を基に、同時代のコスモポリタニズムの思想に関連付けて検証するものである。

そのことで、既存の俳優論の研究では検討されずにいた俳優の公共空間における普遍的な政治理念の敷衍や異文化交流などの文化的機能の全体像を把握し、それを理論化する。さらに、そのことで経済資源としての俳優の美的身体を超領域的な流通拡大が、市民的な生と性を解放させ、俳優のカリスマ化に伴う政治文化的な大衆支配のツールへと変貌した過程を問題化し、そこに新たな視点を投げかける。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、俳優の諸活動を対象に、18世紀から19世紀にかけて国民主義や愛国主義とせめぎ合いつつ広く展開した倫理的また商業主義的コスモポリタニズムの議論に関連づけて、ヨーロッパ共通の演劇アイコンとして活動した俳優のトランスナショナルでコスモポリタニ的な俳優像を分析する。さらに、市民道徳を形成する倫理的な世界市民としての俳優が、演劇文化を浸透させるなかで、各国間の平和的また文化的紐帯として機能した点を検証することである。

本研究の学術的独自性と創造性は、俳優が人間共通の、普遍的な倫理や人間としてのあり方を追求する姿勢を検討することであり、現代の多文化主義を実践する一つの先行モデルとなったことを研究する。また、そうした俳優が、いかにヨーロッパ社会を統合する媒体としてその権威を拡大させたのかを解明することにある。また俳優の社会的名声の高まりを研究することで、19世紀後半より主流になる俳優の美的な身体を消費することで進行した、特に映画産業におけるグローバルな俳優の身体消費へとつながる連続性を追求することである。そして、20世紀初頭の帝国主義と資本主義の支配する世界内で、俳優の世界市民的な性質が政治的また文化的なアルタナティブな対抗手段として利用された点をも研究目的の視野に含めている。

以上の点は、権威的な国民主義や排外主義の蔓延する昨今の状況にとって、ヨーロッパ共通の市民的理想を体現するトランスナショナルな俳優とその国際的な文化活動が、この問題を解決する世界市民的な一つのモデルとなることを、提示する事になる。

### 3. 研究の方法

本研究の方法は、主に近代ドイツ語圏を中心に、英語圏と仏語圏の思想書と演劇俳優論までも含めて広く取り扱い、俳優とコスモポリタニズムの精神を関連付けることである。以下は研究の方法の詳細である。

- (1) 18世紀の演劇論を対象に、都市の活性化や異文化交流などの、演劇産業の振興者であり自由精神を持つコスモポリタニ的人物として提示された俳優像を解明する。
- (2) それに関連して、アダム・スミスの経済思想の言説を対象に、俳優の社会文化的な流動資本としての身体性とそのグローバルで精神的な労働価値の高まりを実証する。
- (3) それに並行して起きたイングランドの経験論的美学議論を対象に、俳優の自然と美を創造する演技術が模倣芸術に範疇化され、普遍的な政治理念を伝達する優れた文化的媒体として認識された経緯を解明する。
- (4) カントの倫理的コスモポリタニズムの広がりとその影響を考察し、その影響下にあった知識人の芸術論を対象に、経験的世界における俳優のトランスバウンダリーな存在と、その世界市民としての倫理的な責務と国民全体の繁栄への政治文化面での貢献を解明する。
- (5) ヴィルトゥーゾの俳優を対象に、そのコスモポリタニズムの精神と、ローカルで抑圧的な社会構造に対するコスモポリタニ的な批判意識を理論化する。
- (6) 俳優と観客との上演における交流を通じた文化経験の敷衍が、俳優の超領域的な文化的統合機能を強化し、そのことで俳優の美的な創造的身体が、新しいメディアの登場した時代において、グローバルに受容された経緯を明らかにする。

### 4. 研究成果

- (1) 演劇教育の導入を提言した思想家の言説を調査し、演技に普遍的な人格形成と諸国統治のための教育価値が付されていたことを検討した。そして、18世紀の啓蒙主義者であるカントやモンテスキュー等のコスモポリタニズムの言説を対象に、そこで提唱された超国家的

な商業平和主義と理想的な世界市民像を分析し、俳優の世界市民的で社会文化的な貢献についての認識を調査した。

(2019年著書刊行(担当箇所単著)「Actors and Their Cosmopolitan Existence」『Cosmopolitan Imaginings/Kosmopolitische Gedankenwelten』所収 オーストリア文学会、Königshausen & Neumann社)

(2019年「国際18世紀学会」(エジンバラ大学)で発表。:「The Development of Actor's Cosmopolitan and enlightened Identity: Through the Promotion of Theater Education and Market Cosmopolitanism」

(2017年の関連論文を参考「Actors and Their Cosmopolitan Existence: Their contribution to the intermediacy among the classes, their cultural refinement, and their development of a sense of morality」所収『Journal of Humanities and Sciences, Nihon University』)

- (2) バロック時代のドイツ語圏の演劇文化である、エリート層の子弟の教養と道徳形成を担った学校演劇やイエズス会劇や、俳優に関する言説を調査した。その際に、ライプニッツの君主教育論に着目し、そこで提唱された王子に対する演劇教育の導入を検証した。ライプニッツの普遍主義における君主教育プログラムは、将来の為政者のための普遍的な教養修得と公共の利益への奉仕を構想するものであり、諸国治世に向けた演劇教育の導入は、演劇を組み込んだ国家建設的な政治化であることを分析した。  
(2019年に、『Journal of Humanities and Sciences, Nihon University』所収の論文を刊行「Leibniz's Theory of Princely Education: The Introduction of the Theatrical Method」)

- (3) 近世の直感教育教授法の先駆者であり、ヨーロッパの教育に後世まで多大な影響を及ぼしたチェコの教育思想家コメニウスの全人教育と遊戯学習や、平和を維持するための、演劇構想に着目し、その演劇的また直感的な教育手法が、後世の教育思想に影響を与え、演劇的な教育手法を導入した演劇教育を推進していたことを明らかにした。その際に、演劇が生徒の普遍的知識の獲得と道徳形成の手段として学校教育に導入されていた点だけではなく、知識層の師弟が、俳優として演技を行うことで、コスモポリタニズム的な平和の敷衍が意図されている点を分析した。  
(2019年の台湾ドイツ文学会(高雄)で発表。同年論文(プロシーディング)刊行「Use of Traditional Japanese Games in Intercultural German Conversation Classes: A Study Based on Comenius' Concept of Playful Learning」)  
(2020年著書刊行(担当箇所単著)『中世的身体イメージと遊戯性 宮廷文化に内在する逸脱の傾向』所収「Die Darstellung des Königs in Comenius' Schola Ludus」)

- (4) 西欧の貴族教育の中核をなす伝統的なレトリック教育に注目した。レトリック術の獲得は、支配階級の権力の再生産や階級社会の秩序を維持する社会階層的な区別の目印として機能した。このレトリック教育について、ライプニッツの君主教育論を対象に検証を行った。その際に、西欧の宮廷伝統的な言語教育政策との関連と、同時代的なエリート学校教育の観点から分析し、ライプニッツが王子を宮廷生活の文化規範に習熟した支配者となり、権力の再生産を実現する存在となることを望んだ点を論じただけでなく、近代啓蒙主義的な自律した個人であり理想的な君主になるため、俳優として演技をすることが推奨されていた点を明らかにした(2020年『ライプニッツ研究』にて論文刊行「ライプニッツの王子教育論におけるレトリック教育について」)

- (5) ルネッサンス期の演劇教育の進展を背景とした俳優に対する肯定的な社会的認識の展開について、宮廷と俳優の関係について、知識人の言説を基に調査を実施した。都市建築が演劇的スペクタクルの要素を取り込み、劇場が公共機関としての政治性を増す傍らで、都市間を移動する俳優のコスモポリタニズム的な存在が高まり、そのことで文化媒体としての機能が高まった。

この時代背景を手がかりに、モンテーニュのエッセイにおける、俳優の影響力の向上と都市の娯楽に関わる俳優の文化的役割について検討した。その際に、俳優の市民に対する演劇経験の提供と、文芸共同体の構築、社会的なコミュニケーションの豊穰性を実現する機能に注目し、俳優の階級や国籍を超えた文化的紐帯としてのコスモポリタニズム的な存在を分析した。

また、俳優の職業観の向上について、市民社会における演劇の大衆化の進展以外にも、貴族や知識階級の子供達の修辞学教育に演劇的手法の導入がみられた点について調査をした。パスカル以外にも、文法学校等でレトリック教育が開かれた英国における知識人ペーコンやエリオットの言説も分析した。演劇の言語的・道徳的教育効果が評価され、さらに俳優が教師的役割として認識される過程も考察した。

また、俳優が徐々に社会的また文化的象徴となる過程において、演劇に対する宗教的抑圧の緩和があるが、この宗教観の変化を背景に、エラスムス、ルター、コメニウスの言説

から喜劇の教育的効果とそれに伴う喜劇役者に対する肯定的な評価に焦点を当てて考察した。

(2022年『Lynkeus』への論文投稿を予定)

- (6) 19世紀ドイツ語圏で活躍した喜劇俳優でありヴィルトゥーゾであるネストロイのコスモポリタンの意識とそのレトリックを分析し、さらにその独創的で即興的な演技術を対象に、同時代の検閲の法領域を超越し、倫理的・文芸的なコスモポリタニズムを創造した点を分析した。

(2019年『ヘルダー研究』で論文刊行「ネストロイの演技術と法領域の変動について」)

本研究成果については、書籍として2021年度秋を目処に出版をする予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 山崎明日香	4. 巻 6
2. 論文標題 ライブニッツの王子教育論におけるレトリック教育について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ライブニッツ研究	6. 最初と最後の頁 123-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamazaki, Asuka	4. 巻 54
2. 論文標題 'Allgemeiner Wille in Zaesuren: Die Durchbrechung herkoemmlicher Machtstrukturen durch die neuen Buergerinitiativen und -bewegungen	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Lynkeus	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yamazaki, Asuka	4. 巻 2019
2. 論文標題 Use of Traditional Japanese Games in Intercultural German Conversation Classes: A Study Based on Comenius' Concept of Playful Learning	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 GDVT- Jahrestagung / Symposium 2019 Programm	6. 最初と最後の頁 171-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎明日香	4. 巻 23
2. 論文標題 ネストロイの演技術と法領域の変動について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヘルダー研究	6. 最初と最後の頁 63-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamazaki, Asuka	4. 巻 25/1
2. 論文標題 Leibniz 's Theory of Princely Education: The Introduction of the Theatrical Method	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Humanities and Sciences, Nihon University	6. 最初と最後の頁 11-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎明日香	4. 巻 52
2. 論文標題 ライプニッツにおける「絶滅」の思想についての予備考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リユンコス	6. 最初と最後の頁 115-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YAMAZAKI, Asuka	4. 巻 10(2)
2. 論文標題 'Only the Winner is Allowed to Live': The Memory of Cannibalism in Attack on Titan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ImageText: Interdisciplinary Comics Studies	6. 最初と最後の頁 1-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎明日香	4. 巻 23.3
2. 論文標題 ハインリヒ・テオドル・レッチャーにおける俳優のための音声理論について: ヴィルヘルム・フォン・フンボルトの言語思想を手掛かりに	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 総合文化研究	6. 最初と最後の頁 21-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Yamazaki, Asuka
2. 発表標題 The Development of Actor 's Cosmopolitan and enlightened Identity: Through the Promotion of Theater Education and Market Cosmopolitanism
3. 学会等名 ISECS(International Society for Eighteenth-Century Studies) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamazaki, Asuka
2. 発表標題 The use of Traditional Japanese Games in Intercultural German Conversation Lessons: A Study Based on Comenius ' Play Concept
3. 学会等名 GDVT (Germanisten- und Deutschlehrerverband Taiwans) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 ライブニッツの王子教育論におけるレトリック教育について
3. 学会等名 桜門ドイツ文学会研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 コメニウスの『遊戯学校』と王の表象
3. 学会等名 日本独文学会秋季研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 貴族教育に導入された演劇教育について : ルネッサンス時代からバロック時代までの言説を手がかりに
3. 学会等名 日本独文学会秋季研究発表会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 ライブニッツの君主教育論における演劇教育の導入 : Lettre sur l' Education d' un Princeを手がかりに
3. 学会等名 日本ライブニッツ協会 第10回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎明日香
2. 発表標題 ネストロイの演技術と法領域の変動について
3. 学会等名 日本演劇学会 2018年度全国大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Allison Lewis , Katie Sutton, Christiane Weller, R. Millington, Asuka Yamazaki etc.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Koenigshausen & Neumann	5. 総ページ数 280
3. 書名 Kosmopolitische Gedankenwelten / Cosmopolitan Imaginings	



1. 著者名 伊藤亮平, 渡邊徳明, 嶋崎啓, 山崎明日香	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本独文学会	5. 総ページ数 98
3. 書名 中世的身体イメージと遊戯性 宮廷文化に内在する逸脱の傾向	

1. 著者名 伊藤亮平, 渡邊徳明, 嶋崎啓, 山崎明日香	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本独文学会	5. 総ページ数 77
3. 書名 中世文学における身体描写の逆説的レトリックを巡って	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------